

## 令和3年度 自己点検評価改善委員会 自己点検評価実施報告

### I、教務委員会による各種アンケート結果に対する検証を踏まえた現状の評価と今後の改善について

#### 1、現状の評価

- ① 本校の教育理念，教育目標，学習・教育到達目標に関する周知は十分行われており、また学生、教職員から3つの方針を最近よく目にするとの声を聞くが、教職員・学生への浸透度に課題。また、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの認知度も不十分。
- ② 卒業生・修了生からは、国際化への理解、英語によるコミュニケーション能力の育成、自分の専門分野だけでなく境界分野の知識を身につける、といった項目に関する評価が低い。
- ③ 保護者からは、学生の「心身の健康」および「スマホ（SNS）の使用」に多くの懸念が寄せられている。一方で、寮の環境向上のため寮費の値上げを行うことについては、理解を示す回答が多い。
- ④ 就職先からは、「多様な国際文化への理解力並びに英語によるコミュニケーション能力の高い人物」「自分の専門分野だけでなく他の分野の知識と総合して工学的課題の解決を図る能力」の育成を求められている。
- ⑤ 進学先からは、「多様な国際文化への理解力並びに英語によるコミュニケーション能力の高い人物」「自分の専門分野だけでなく他の分野の知識と総合して工学的課題の解決を図る能力」の育成を求められている。また、「基礎学力」の育成を重視すべきとの指摘も多い。
- ⑥ 広報活動に関しては、おおむね好評であった。

#### 2、改善案

- ① 引き続き教育理念，教育目標，学習・教育到達目標の周知を続けて、教職員・学生への浸透を図る。HRの教室、印刷室、実験室、各教員室、事務室、共通スペース等に掲示し、非常勤講師にも年1回ぐらいのペースで配布。また、始業式のガイダンスや特活などでも説明を行う。専攻科のガイダンスでも記入式のプリントを用いて周知徹底を図っている。
- ② 国際交流活動で育成したい能力・人材育成の目標を、項目を立てて示す。また、日本人学生と留学生との交流の機会（地球ラボ・国際寮等での交流活動計画を増やしていくなどして対応。）を増やす。なお、現在進行している新たな取り組み（学科・専攻科横断型一貫教育プログラム、グローバルエンジニア育成事業、専攻科での英語でのプレゼン等）により、今後の改善が期待できる。また、専門分野の知識をしっかりと身につけさせる教育も、従来通り重要。専攻科特別研究発表会において英語によるショートプレゼンを必須とし、英語での質疑応答の機会を設ける。

- ③ SNS の適切な使用について、特別活動や講演会等により、継続して指導し、情報発信を行っていく。
- ④ 「コミュニケーション能力」の涵養のため、授業内でグループ活動の時間を増やすなど、仲間同士で活動する場面を設定していく。なお、現在進行している新たな取り組み（学科・専攻科横断型一貫教育プログラム、グローバルエンジニア育成事業、専攻科での英語でのプレゼン等）により、今後の改善が期待できる。
- ⑤ 現在進行している新たな取り組み（学科・専攻科横断型一貫教育プログラム、グローバルエンジニア育成事業、専攻科での英語でのプレゼン等）により、今後の改善が期待できる。
- ⑥ 今後も公式 Web ページ、メールマガジン、各種刊行物の充実を図り、ステークホルダーにとって適切かつ満足度の高い情報発信を検討し、実践していく。

## Ⅱ、令和 3 年度外部有識者会議報告書に関する検証について

### 1、現状の評価

- ① 外部有識者からは、総じて本校の活動に対して高い評価を獲得。特に研究・社会連携で高い評価。また、専攻科の本科専攻科横断教育プログラムや 4 学期制による柔軟な学習環境の整備、他大学との連携などでも評価を頂いた。一方で、学生支援、および管理・運営に関する事項については評価が低いように見える。
- ② 教育改善に伴う、教職員、学生の負担軽減が今後の課題。
- ③ コロナ禍によって生じたオンライン授業のあり方、来日できていない留学生への対応などについて配慮・改善の要求あり。
- ④ 入試志願者を増やすための方策について、今後も改善の検討と実施の継続が必要。
- ⑤ 海外への留学、4 学期制への期待が強い。

### 2、改善案

- ① 引き続き、改善を推進。特に 3 つのポリシー（アドミッションポリシー・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー）の改定作業を進めていく。研究・社会連携分野では、対象科目に全学科から学生が参加するよう制度整備、および働きかけを強める。
- ② 補助事業により新システムを導入し、データの一元管理等を通じて業務負担軽減を目指す。企業との連携科目については、科目のテーマを卒業研究テーマにできるような仕組みの構築を行う。専攻科については、適度な科目履修等のアドバイスを、科目構成の見直しによる無理のないカリキュラムの構築を目指す。
- ③ Teams を活用した講義のライブ配信を実施。学生ごとのニーズや個性に合わせた、きめ細かな対応や支援体制の構築を検討。
- ④ 広くメディアに取り上げてもらい本校の知名度を上げるため、プレスリリースを今後も積極的に行っていく。

- ⑤ 学生に主体的に学外実習や留学に取り組んでもらうため、一層の周知を図る。

### Ⅲ、在学生に対する生活環境アンケート結果に対する検証について

#### 1、現状の評価

- ① 校内ネットワーク環境、および寮内ネットワーク環境について、学生からの改善要求が多い。
- ② 通信機器が古いため、インターネット接続速度が十分ではないという問題が生じている。

#### 2、改善案

- ① 対応が可能な部分については、ネットワーク環境の整備と改善を進めていく。寮費の値上げにより環境改善の費用を捻出する、情報処理センターと寮務委員会との協議で課題解決を進める、などの対応を進める。
- ② 一方で、寮生活の規律指導などによりネットワークの制限が必要な部分については、学生への指導を通じて理解を得るよう努める。寮生に 24 時以降のネットワーク環境が本当に必要か、利便性を追求するのか、学生に規律ある適切な環境を提供すべきなのか、そのバランスを含め検討する必要あり。また、インターネット接続問題に関する相談箱を設置し、学生の意見・要望を受け付ける。
- ③ ネット接続の時間帯について、今後は制限がかからないようにする。

#### 3、改善実績

- ① 令和 2 年度に学生寮 4 号館および清花寮に WiFi 設備を設置し、無線 LAN 環境を整備。
- ② 令和 3 年度にスイッチングハブを学生寮中央棟に増設。
- ③ 学生寮長とネットワークの改善について意見交換。

### Ⅳ、その他

#### 1、アンケートについての提言

- ① アンケートの評価によって既存の取組を中止したり、アンケートの結果のみに振り回されないよう注意して、改善を進めていく必要あり。
- ② アンケートの質問の仕方によって、回答が変わる項目もあるのではないかな。
- ③ 寮生へのアンケートについて、質問項目の工夫が必要。
- ④ 次回以降のアンケートで、卒業生・修了生に対し、在学中の国際交流活動が、その後の進路選択にどのような影響を与えたかについて質問願いたい。